

鳥海柵を知る

金ヶ崎の国指定史跡

一町民大学 2013 シンポジウムより

11



鳥海柵の東部に位置する縦街道古墳群

鳥海柵の東部に位置する縦街道古墳群

胆沢城と平泉の柳之御所は発掘調査で非常に良く実態が分かってきていくが、その間の時期がどうだったということが分かりらない。その点で鳥海柵は、前九年合戦における安倍氏十二柵の先鞭の地であるとともに、11世紀の時代を窺明する大事な遺跡である。

妻になり、三代藤原秀衡の娘が、二代藤原基衡の妻となり、北方の王者といわれた人で、藤原三代の中でも一番偉大な人物。その秀衡が宗任の子孫である。これは非常に大事なことだと思う。

□安倍氏と平泉文化

鳥海柵が藤原氏の祖靈の地であるというのは、いわれているから。宗任

初代清衡も安倍の血を引いた人。なぜ清衡が平泉をあのような形に仕上げることができたか。前九年合戦、後三年合戦の中で、自分たちの父祖がどのような形で國(中央政府)に負けたか。これは武力で立ち向かつたからで、國の武力には太刀打ちできないと身で悟ったと思う。

ならば、一族が生きていくすべとして何が一番いいか。これはやつぱり知略。要するに「知恵」であり、当時では仏教を奨励すること、日本の国教を奨励することだった。それからもう一つ、天皇をあがめるということ。天皇をあがめるということは國を守るということ。これは清衡自身が「中尊寺供養願文」で述べていることである。この二つを徹底し、平泉をつくった。

11世紀の謎解く祖靈の地

本堂 寿一氏 (前北上市博物館長)

総括・鳥海柵跡について 中

藤原文化というのは、清衡が前九年・後三年合戦の中で身に付けた知恵だと思う。もしこの戦いがなかつたら、平泉文化ができたかどうか。私は疑問だ。

なぜ、この辺境の、田舎といわれるこの地に、田舎といわれるこの地に、京都に負けない文化がつくり上げられたのか。それはいつか都人を見返してやるという清衡の強い意志で、平泉文化は出来上がつたと考えている。

この辺りの古代の人たちは、在来の人たちと新しい移民に分けられるとしている。在来の人たちは古墳を祭つた人たち。一方移民は、胆沢城を造る時に連れて来られたという農民たち。この人たちにとって古墳はいらない。恐らく壊すこともない。恐らく壊すことない。私は思っている。

アテルイは田村麻呂と戦つたが、縦街道古墳群の人たちはどうしたかよ

ただ土中にさきがら埋めてしまえば何もなくなってしまうが、古墳という高塚にすることで皆がお参りに来る。つまり、縦街道に多くの古墳を造つたのは、一族がまとまるための拠所としたからだ。

安倍は「火」の神



鳥海区域西部から出土した香炉のふたと
緑釉陶器唾壺、墨書土器「五保」。9月まで
金ヶ崎要害歴史館に展示されている

安倍氏というのは、中央貴族の分派だとする説もある。しかし「アベ」はアイヌ語で「火」という意味。最高の神様である。この方が魅力的である。東北にアイヌ民族がいたかという問題もあるが、安倍氏や藤原氏は、日本の中と文化が一緒になつたことによつて古文化を捨て、忘れていたがつて、東北にアイヌ語がたくさんあるということも見据え、安倍(アベ)がアイヌ語の火に發していく必要がある。

く分からない。田村麻呂に従つたとすれば、胆沢城の造営に動員されたんだと思う。そうなれば、あそこに村を構えていてよかったんだと思う。

私は今回の発掘で出土した、五保と書かれた土器や唾壺、香炉のふたが出てきた堅穴住居跡は出来上がつたと考えている。

この辺りの古代の人たちは、在来の人たちが、俘囚をまとめて軍隊をつくるようになつた。胆沢城の軍隊と代替わりをして、奥六郡の信頼を得た。その結果、五保と書かれた土器や唾壺、香炉のふたが出てきた堅穴住居跡は出来上がつたと考えている。

京都に負けない文化がつくり上げられたのか。それはいつか都人を見返してやるという清衡の強い意志で、平泉文化は出来上がつたと考えている。

京都に負けない文化がつくり上げられたのか。それはいつか都人を見返してやるという清衡の強い意志で、平泉文化は出来上がつたと考えている。